

## 入試時の体力テスト配点改定が中学校体育授業 にもたらす変化とその影響

—中国吉林省白山市の場合—

高 源

キーワード：体力テスト、体育授業、入学試験

The impact and its influence caused by revision of physical fitness test at entrance examination to junior high school physical education lesson  
—The case of Baisan city, Jiling province of China—

Yuan Gao

Abstract

The Physical Education(P.E.) department of the Ministry of Education in China started to reform from the P.E. test of senior high school entrance exam, which is the most important basic examination and the first important P.E. test for young people. Through the reform, they expended to improve the physical constitution of the young people in China.

In this study, we took the junior high school of Baishan City of Jilin Province in China as an example. Through the questionnaire and interview for the teachers and students, we investigated on the changes that occurred in physical education class of junior high school and the sports awareness and attitude of the students after the revision of P.E. test score in high school entrance exam.

The results are follows:

- 1) P.E. class at all junior high school were changed to correspond of change of exam.
- 2) 9<sup>th</sup> grade students felt more improve of physical strength than 8th grade students.
- 3) Student's evaluation of P.E. class were differentiated as the grade increased.

Students and teachers adopted the change of exam. It is expected that people in China will improve physical strength.

Key words: physical test, physical education class, entrance examination

## 1. 諸言

中国改革開放以来、グローバル化時代とともに、社会の発展と経済の進歩が見られている。中国の生産力は大きく高まったと言える。これに伴い国民は自分のライフスタイルやその質、さらには身体状態に新しい要求や関心が高まってきている。中国の体育教学研究部による体育教学模式（モデル）の改革強化途上の中で、こういった人々の関心は無視できない。

一方、近年大学生の軍事訓練中の急死事件が相次いで伝えられ、各大学の警戒と政府部門の高い関心と呼んだ。事件の原因として、中学、高校時点での体育軽視による体力減退傾向が挙げられた。受験教育体制の下これらの動きを承け、政府体育局は青少年の体力強化、向上を優先課題にすえ、体育教育大綱を度々修正することを通じ、国民全体の生涯体育健康意識の育成向上を期した。この一環として 2014 年、体力テストに関する入試改革（入試に占める配点の増加）に手をつけることを決定した。

## 2. 研究目的

本研究では、中国吉林省白山市の中学校を対象に、入試における体力テスト配点見直しによる体育授業の変化ならびに生徒のスポーツ意識の変化の様相を具体的に検討することを目的とする。

## 3. 研究方法

吉林省白山市内にある中学校 51 校のうち 5 校を抽出し、生徒合計 600 名に対するアンケート調査、および教師 15 名、生徒 15 名に対する半構造化法によるインタビュー調査を実施した。

### 3.1 インタビュー調査

インタビューは半構造化法によった。質問内容は、高校入試のスポーツテスト配点

の変更に関する認識、変更に対する考えならびに体育授業の変化とその影響を中心とした。対象者は教師 15 人（3 名×5 校）、生徒 15 人（3 名×5 校；体育成績により層化し、抽出を行った）であった。

### 3.2 アンケート調査

スポーツ入試配点増加に伴う授業の変化や生徒の体育ならびに体力テストに対する見方や状況を理解するため、上記に対する意識、効果、満足、意見などに関する質問項目からなる調査を実施した。具体的には、現在の中学体育授業と高校スポーツ入試の関係、新しい指導方針の実行状況、高校スポーツ入試に関する感想や考え、配点に関する見方と意見等を尋ねた。

回収率は 100% であったが、有効な分析対象者は 429 名となった（全回答数の約 75%；学校や学年による偏りは見られなかった）。

## 4. 結果

### 4.1 インタビュー調査から

インタビューの回答は、一部（追加の体育授業に対する思い）についてはばらついたものの、他の質問に対する回答内容は全員がほぼ一致し、概ね下記のことから明らかとなった。

- ①スポーツテストの配点増加は、生徒の体育に関する意識を高めた。
- ②自分の体力状態やスポーツの不得意さを自覚する学生が多かった。彼らは主要科目の学習負担が重いので、テスト配点増加はあまり歓迎していない。一方、受験競争が激しいので、希望通りの進学のため、体育授業で色々訓練して、スポーツテストでも加点したいと考えている、という背反的な考えが見られた。

また、追加質問により以下の回答が得られた。

代表者① A 体育教師：男性、36 歳

今年のスポーツテストについて、通知された監督規定は昔と違い、厳しくなった。記録、報告の不正に対する厳罰化が行われ、職務停止までありうるとのことだった。

代表者② B 体育教師：男性、32 歳

2017 年の白山市スポーツテストの配点変化については、調整後、15 点になった。これは白山市でもスポーツテスト改革が開始される合図である。翌年の配点は 40 点になるので準備が必要とのことだった。

代表者③ C 生徒：女性、14 歳（八年生）

2017 年の体育授業の変化については、授業中生徒は自由活動がなくなり、採用されるかもしれないテスト項目を練習するようになった。先生からの要求も厳しくなったと言っていた

## 4.2 アンケート調査から

- (1) スポーツ試験の配点増加に伴う授業の変化について尋ねた質問（4 件法）について検討する。分散分析の結果、交互作用および学校の主効果は認められず、学年の主効果のみが有意であった。事後検定の結果、図 1、2 で示したとおり、9 年生よりも 7、8 年生の体育授業の変化がより大きい。この傾向は学校によらず同じであった。

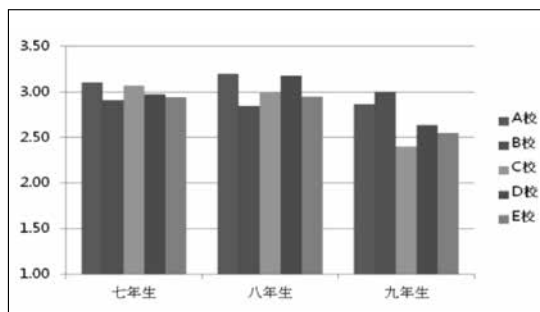


図 1 体育授業の変化（数値高→変化大）

- (2) スポーツ試験対応の体育授業が自分の体力向上への影響（3 件法）について検討する。回答平均について分散分析

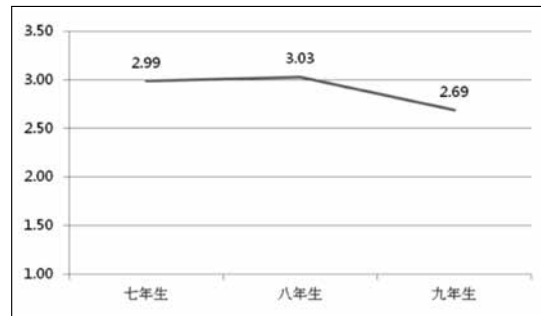


図 2 体育授業の変化全体平均

を行ったところ学年×性別の交互作用が有意であった（表 1）。

表 1 体力向上の分散分析表

被験者間効果の検定					
従属変数: 試験のための体力向上					
ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
修正モデル	4.340 <sup>a</sup>	5	.888	2.205	.053
切片	1723.032	1	1723.032	4370.570	.000
学年	1.513	2	.756	1.919	.148
性別	.084	1	.084	.214	.844
学年 * 性別	2.825	2	1.413	3.583	.028
誤差	145.887	370	.394		
総和	1868.000	376			
修正総和	150.213	375			

a. R 乗 = .028 (調整済み R 乗 = .018)

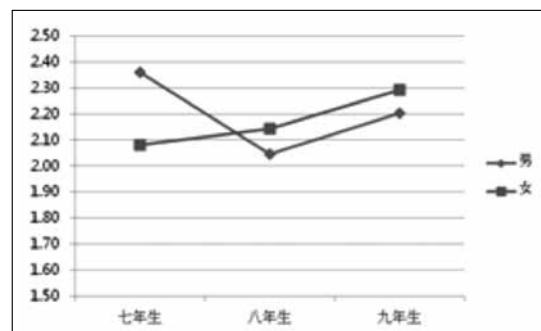


図 3 体力向上平均

- (3) スポーツへの好き嫌いの変化を尋ねた項目（5 件法）をみる。学年、性別による回答の平均値について検討する。ただし、「1、以前より好きになった」から「5、以前より嫌いになった」という方向の回答数値となっている。こ

の結果、学年と性別の間の交互作用が有意となった（図4、表2）。

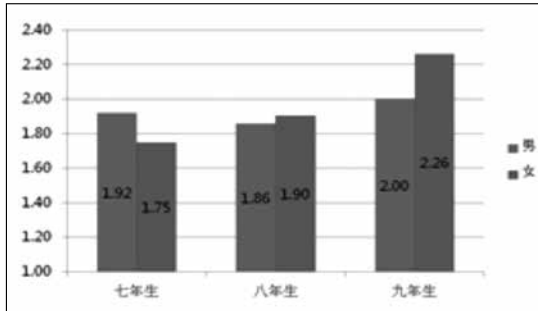


図4 スポーツの好悪（数値高→嫌）

表3 スポーツ好悪分散分析結果

被験者間効果の検定					
従属変数: スポーツ好き変化					
ソース	タイプIII 平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
修正モデル	12.880 <sup>a</sup>	5	2.538	4.781	.000
切片	1559.823	1	1559.823	2897.804	.000
学年	7.334	2	3.667	6.807	.001
性別	.215	1	.215	.405	.525
学年 * 性別	3.372	2	1.686	3.178	.043
誤差	224.555	423	.531		
総和	1882.000	429			
修正総和	237.245	428			

a. R2 乗 = .063 (調整済み R2 乗 = .042)

- (4) スポーツ試験対応授業の好き嫌い  
 得点の多い方が「嫌い」を意味する。  
 交互作用はなく、学年進行とともに「嫌い」な方向への変化があることがわかる。
- より詳細にクロス集計したところ、高い学年ほど好きと嫌いの両極への変化が激しいことが分かった（表4、図5）。
- (4) 期待している体育の授業について、学年による違いを検討する。学生は「身体を鍛える」と「皆楽しくする」の授業を望んでいる。良いスポーツ成績を取るための「スポーツテストの訓練」の授業も期待する（図6群）。

表4 試験対応授業の好悪分散分析

被験者間効果の検定					
従属変数: スポーツ試験授業の好き嫌い					
ソース	タイプIII 平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
修正モデル	18.301 <sup>a</sup>	5	3.280	3.827	.002
切片	2338.513	1	2338.513	2748.384	.000
学年	8.858	2	4.429	5.788	.003
性別	2.411	1	2.411	2.831	.083
学年 * 性別	2.282	2	1.141	1.340	.283
誤差	380.333	423	.852		
総和	2840.000	429			
修正総和	378.834	428			

a. R2 乗 = .043 (調整済み R2 乗 = .032)

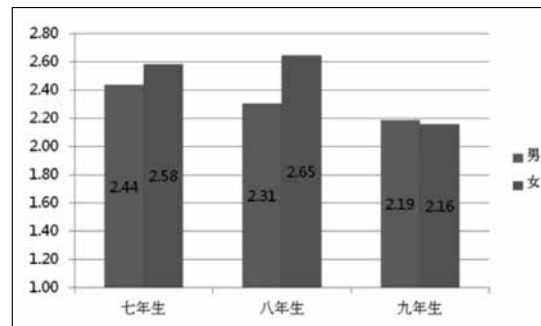
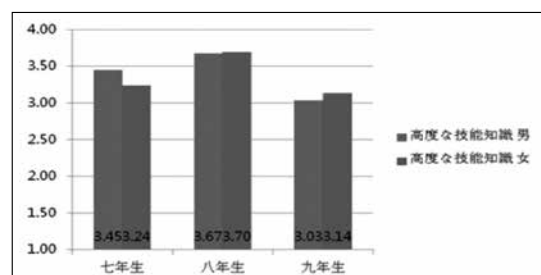
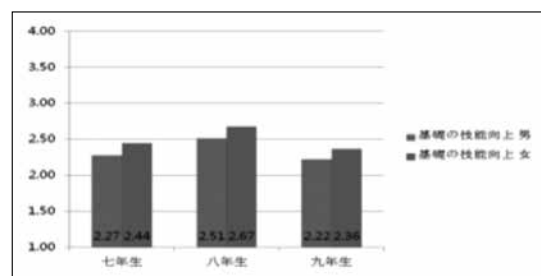
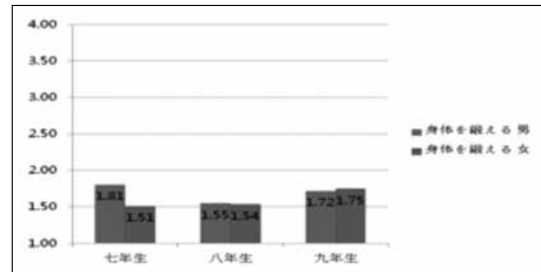


図5 試験対応授業の好悪平均



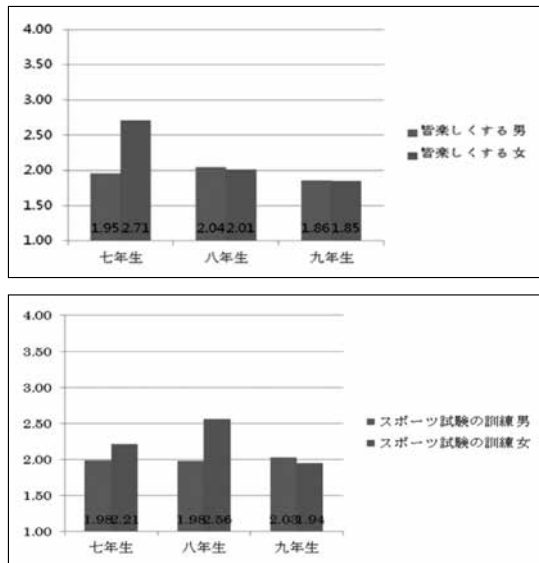


図6群 授業に望むもの (数値低→希望)

## 5. まとめ

- ①白山市では配点増加に伴い、学校によらず体育授業の変更が行われていた。変化は、受験を目前としていない7・8年生で大きい。
- ②学年が高いほど、体育授業による体力の向上が実感されている。しかし、授業そのものへの好き嫌いは両極分化する傾向がある。
- ③体力向上とスポーツへの好感度はある程度リンクしている。

### ・体育授業変化のまとめ

インタビューから明らかとなった体育授業の変化を以下にまとめる。

- ①授業回数、時間を増加した。現在は週2回、来年は週3回の計画がある。九年生の「夕自習」(ある学校の例 16:30～18:00)の時間はスポーツ授業になった。
- ②授業内容が変化した。以前の内容は、ウォーミングアップ、1000メートル走に加え、入試前の一ヶ月だけその年の試験内容を練習していた。それ以外は自由活動であった。今は、年間を通じその年のスポーツテスト内容を訓練している。

## 6. 考察

インタビューとアンケート調査から考えられる変化を述べる。スポーツ授業の内容、時間、回数が変わった後、生徒は自分の鍛錬に対する効果を再認識し、授業への取り組みがやや変わった。この中で、スポーツの楽しみの認識や興味関心が今後高まることが期待される。

また、授業を通じ体力が高まると同時に、意外に自分にも上手な運動があることを認識することも期待できる。このことは、スポーツ入試が終わった後も、何らかの運動参加にもつながりうる。

しかしながら、試験のための学業負担が非常に重く、十分な睡眠と休憩時間を取れない現状では、授業の大部分をテスト項目の訓練に割いている体育に対して、授業がつまらない、体がもっと疲れる、眠くなる、逆に嫌いになる、うんざりとするといった学生も存在した。これらの傾向は体力とも相関するようであった。

## 7. 今後の課題

スポーツ入試配点改定は、緒についたばかりである。2018年にはスポーツ入試点数が40点にさらに増えることは十分に周知されていない。この情報に触れると、生徒は意外、驚き、懷疑、傍観的な態度をとる。これは政府の政策について、学校の重視程度が不十分のため、情報提供が不足しているためであろう。宣伝力を強化する方法は、これからの重要な課題となる。しかし、スポーツ重視の問題は学校の責任だけではなく、社会全体の問題である。時間の推移とともに、これらの課題が解決されることが期待される。

さらに今回は体育教師、学生の事例を調査したが、その他の関係者(例えば他教科の教師、両親)の考えももっと明らかにする必要がある。実態を調査し、有意義な情

報を提供したい。

## 8. 参考文献

- [1] 楊則宜, (2016) 我が国青少年学生体質の現状、問題と対策, 国家体育総局アンチドーピング中心(北京100029).
- [2] (2015)『2016 長春スポーツ入試項目採点標準公布』, 長春市教育局.
- [3] (2015) 中国青少年健康体重調査報告, 南方週末, NO20151120.
- [4] (2017) 吉林省高校スポーツ入試改革案, 吉林省教育情報政府筋ネットワーク.
- [5] (2017) 吉林省高校スポーツ入試採点標準と吉林高校入試スポーツテスト項目, 吉林省高校入試情報ネットワーク.
- [6] (1995) 中国『全国健身計画』.
- [7] (2016)『国家学生体力健康標準 2016 年改定版』, 国家教育部.
- [8] (2013)『国家体育鍛鍊標準施行法則』, 国家体育総局, 国家教育部.
- [9] (1998)『黒龍江少数民族教育促進条例』.
- [10] (1999)『吉林民族教育条例条項』
- [11] (2015)『民族教育の発展を速める決定』, 中国國務院.
- [12] 許成濤, (2015) 中学校体育教学学生障害事故防止戰略, 山東省済南市历城区西営町中学校. (1671—0568 (2013) 24—0018-03).
- [13] 陳誠, (2015) 中学校体育教学革新探索, 江蘇省塩城市中学校.
- [14] 張彬, (2015) 中学校体育教学素質野外研修の意義や措置, 江蘇省南通市田家炳中学校.
- [15] 李強, (2015) 中学校体育教学体育ゲーム応用現状と展望, 内蒙古鄂尔多斯市康巴什新区第二中学校.
- [16] 方立春, (2015) 中学校体育教学学生心理素質を鍛錬することに強化する, 江西省上饒市万年県蘇橋中学校.
- [17] 劉璐, (2014) 中学校体育教学品質の影響要素, 陝西師範大学付屬中学校.
- [18] 田野, (2008) 吉林省都市中学生体育価値観の現状研究, 『吉林大学』.
- [19] 陳広旭, (2007) 吉林市中学校体育教師運用反省性教学の調査分析, 東北師範大学.
- [20] 潘樹勇, (2008) 中学校体育現状及び対策研究——吉林省通化市直中学体育教育改革に連れての啓示, 『現代教育科学: 中学校長』.
- [21] 都本強, (2008) 吉林省白山市区中学生課外体育活動現状に関する研究, 『吉林大学』.
- [22] 吳越, (2016) 中国人の健身変遷史, 『齊魯週刊』.
- [23] 羅時銘、謝麗娜, (2005) 西洋体操から西欧体育——オリンピック運動に影響を与える近代中国人スポーツ觀念変遷, 『体育文化導刊』.
- [24] 蘇荷, (2012) 健身觀念の三大轉換, 中国ネットワーク.
- [25] 婁清, (2005) 中学生の体育授業嫌いの原因分析と対策研究, 長春教育学院新聞 (21-4).
- [26] 馬秀英、袁秀慧, (2013) 中学生の体育授業中の態度に関する調査と分析, 中国論文ネットワーク